官許 錦畫百事新聞 第百七十七号 明治九年八月廿二日 火曜日

嘉良の話

チリングワランングワンと安邊野新墓の戻り足土産いるんジヤ死人のドッコイ新聞の話大阪今宮村三十両といふ料理亭で七月の末日本橋筋邊の干物屋某さんの立派ゐ葬式の仕揚サア遠路五苦勞さんまちへお通りズッと座鋪へドヤ〳〵サワ〳〵モシ遠慮ーていけませんゑ〳〵とやりて下さいと高盛飯二汁五菜のおさ〳〵料理マアゐんゐ献立い取く捨て上と下への大混雑もスッと汐の引たる如くゐ大阪さーて歸まーさがフト此家の伸居が座敷の跡仕舞ゑ行ゑすとハテ怪しーや上段床の間ゐ四年ばりの幼兒ぢ赤いべゝを着てニコ〳〵と笑ふからヤアと吃驚魂消て家内と呼集めゞどうーゑ事かと譯と問ふゐも相手が相手で仕方が無いのら今日の當家日本橋筋の某方へ連行道で大事の〳〵子供ぢ知をぬと該家より人力車で迎ゐ來るに行合ひ早速お渡し申升とづ琥とお内へ參つさ上と同伴〳〵く正ゑ請取候也と証書と引換ゐ確ゑお渡し申まーゑそうゐなんとマア世ゐ我子と忘る程の不孝ゐ親がどこゐ有ふ

〇本月九日夜間屋町邊とクワッ〳〵と廻らるゝ後からチイ巡査の馬鹿五一新の政治ゑナゼ人の妨そるゞ放歌とーゑ其証據いどこゑあるウヌ此棒でブチ殺そと三尺斗の棒と振て懸る連の奴い犬の逃吼ゐヤア巡査の馬鹿と打殺せと訣諭も聞ぢ種々罵詈〳〵組で懸る所へ外巡氏も來り拘引と成ーい上福島村高橋熊吉といふ大たわけ野郎のざゑ見ろィ

本局 大阪心齋橋鹽町角 百事社
社長兼編輯代理 金井德兵衛
印務 前田喜兵衛